

令和5年度

事業報告

社会福祉法人 長い坂の会

I	法人総括	2
II	高齢者福祉事業	
	[1] やすらぎの家 関連事業	
	1 特別養護老人ホームやすらぎの家	7
	2 短期入所生活介護やすらぎの家	17
	3 グループホームほのぼのの家	18
	[2] うららか春陽荘 関連事業	
	1 特別養護老人ホームうららか春陽荘	21
	2 短期入所生活介護うららか春陽荘(ショートステイ)	24
	3 デイサービスセンターはるかぜ	25
	4 デイサービスセンターそよかぜ(認知症対応型)	26
	5 高齢者住宅等安心確保事業 横浜ニュータウン	28
	6 うららかキッズガーデン(事業所内小規模保育施設)	28
	[3] 在宅介護センターわかくさ 関連事業	
	1 デイサービスセンターくつろぎの家	30
	2 デイサービスセンターわかくさの家(認知症対応型)	32
	3 小規模多機能型居宅介護わかくさ	34
	4 くつろぎの家 訪問入浴サービス	37
	5 高知市在宅介護支援センターあさくら	38
	6 高知市朝倉地域包括支援センター	41
	7 生活援助員派遣事業 若草	42
III	児童福祉事業	
	[1] うららか保育園 関連事業	
	1 うららか保育園	43
	2 特別保育事業	47
	3 放課後児童クラブ	49
	4 職員研修参加状況	51
IV	介護福祉士養成事業(公益事業)	
	[1] 平成福祉専門学校 関連事業	
	1 平成福祉専門学校	52
	2 平成福祉専門学校 介護実務者研修	54
	3 平成福祉専門学校 初任者研修(高校生就職支援事業)	54

I 法人総括

猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月より2類から5類へ移行され、世間は元の生活へと戻りつつあるが、高齢者福祉施設では、感染への警戒は変わること無く、感染予防対策を柔軟にしつつも、ご利用者等の安全・安心を最優先としたサービス提供を行った。5類移行後であっても、職員の日常生活における感染リスクに変わり無く、発症時等の感染源特定は、施設内と家庭内での感染以外、特に難しい。それらもあり、高齢者福祉施設での行事等については、開催を見送らざるを得ない状況となり、ご利用者・職員共に、コロナ前の生活に思いを馳せるところである。また、法人内での感染状況は、職員による外部から施設へのウイルス持込み、持出しを徹底し感染予防対策に努めたが、第9波等の感染ピーク時は複数の感染者となり、下表の状況となった。

令和5年度 新型コロナウイルス感染者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
職員		1	4	11	22	11	2	1	2	14	5	10	83
入所			1	1	12	3	2		1	7		8	35
在宅			2	8	8	7				7	4	2	38
保育			1	2	2	1		1	1				8
学校											1		1
利用者等			5	3	30	3	2	1	0	20	9	10	83
入所			4		6			1		4		8	23
在宅			1	1	18		2			11	3		36
保育				2	4	3				1	6	2	18
学校					2					4			6

組織体制では、令和5年度より「仁泉会グループ」として、医療・福祉、そして法人として各事業所との連携や課題等を共有し解決に努めた。

人材確保では、少子化に加え若者の県外流出等により、福祉のみならず県内のあらゆる産業で人材不足の影響は顕著に表れ、中でも介護人材の確保は難しい状況となっているが、就職説明会や介護関係資格の養成機関で行われる施設実習の積極的な受け入れ等を行い、人材確保に努めた。また、退職予防策では、法人内施設への柔軟な配置転換や介護医療院「朝倉」等を含めた仁泉会グループとしての提案等を行うが、残念ながら複数の退職者があり下表の状況となっている。

令和5年度 入退職状況

	正規職員		契約職員		合計	
	本年度	前年度	本年度	前年度	本年度	前年度
採用者数	32	36	3	4	35	40
本部		1				1
入所	23	21	2	3	25	24
在宅	6	11			6	11
保育	3	2	1	1	4	3
学校		1				1
退職者数	30	41	6	7	36	48
本部	1			1	1	1
入所	21	19	1	6	22	25
在宅	4	14	3	0	7	14
保育	2	5	2	0	4	5
学校	2	3		0	2	3

経営状況は、入所施設では新型コロナウイルス感染症も含め入院者の多い一年となり、在宅サービスでは体験利用等積極的に行い新規利用に繋げることもできたが、ご利用者やご家族等の感染等により休止も多く、入所施設も含め、安定経営とは言い難い一年であった。保育事業は、園児数の減少がありつつも、年度当初から徐々に入園が繋がり安定した状況であったが、来年度は更に園児数の減少が想定され、広報活動と業務内容の見直し等が必須と考える。介護福祉士養成事業は、少子化の影響が最も大きく、加えて高校生の進路は大学進学が中心となっており、学生確保の困難が厳しい経営状態へと繋がっている。介護人材確保の要であるため、来年度は教員による広報活動を行い、介護に対するネガティブイメージ払拭へ積極的に取り組む。

令和5年度 活動実績

やすらぎの家拠点					うららか春陽荘拠点				
項目		本年度	前年度	増減	項目		本年度	前年度	増減
やすらぎの家 (106名)	稼働率	94.0%	95.8%	-1.9%	うららか春陽荘 (80名)	稼働率	93.4%	94.5%	-1.1%
	1日平均	99.6	101.6	-2.0		1日平均	74.7	75.6	-0.9
	入院日数	1,952	1,503	449		入院日数	1,502	1,437	65
	空白日数	400	101	299		空白日数	436	198	238
	入所者数	47	30	17		入所者数	44	20	24
	退所者数	46	30	16		退所者数	42	16	26

短期入所 (11名)	稼働率	50.9%	58.2%	-7.3%	短期入所 (20名)	稼働率	40.5%	38.5%	2.0%
	1日平均	5.6	6.4	-0.8		1日平均	8.1	7.7	0.4
ほのぼの の家 (9名)	稼働率	98.9%	96.7%	2.2%	はるかぜ (30名)	稼働率	54.3%	57.3%	-3.0%
	1日平均	8.9	8.7	0.2		1日平均	16.3	17.2	-0.9
					そよかぜ (12名)	稼働率	57.5%	45.0%	12.5%
						1日平均	6.9	5.4	1.5

在宅介護センターわかくさ拠点				
項目		本年度	前年度	増減
くつろぎ の家 (28名)	稼働率	65.7%	58.6%	7.1%
	1日平均	18.4	16.4	2.0
わかくさ の家 (12名)	稼働率	77.5%	76.7%	0.8%
	1日平均	9.3	9.2	0.1
小多機 わかくさ (29名)	稼働率	98.6%	98.3%	0.3%
	1月平均	28.6	28.5	0.1
訪問入浴 (4名/日)	達成率	102.5%	100.0%	2.5%
	1日平均	4.1	4	0.1
居宅 あさくら (39名/人)	稼働率	10.5%	10.3%	0.3%
	1人あたり	35.5	33.4	2.1

うららか保育園				
項目		本年度	前年度	増減
保育園 (130名)	稼働率	85.2%	96.9%	-11.8%
	1月平均	110.7	126.0	-15.3

平成福祉専門学校				
項目		本年度	前年度	増減
介護福祉 士養成 (40名)	稼働率	35.0%	60.0%	-25.0%
	翌入学生	14	24	-10

危機管理では、自然災害と感染症に対するBCPを拠点にて作成し、特に、高齢者福祉事業では、来年度までに必須となっている。今後は、職員への周知・協議を定期的に行い、訓練へと体制を準備し、かつ、必要に応じ修正等を行う体制も確立を目指す。

(1) 令和5年度 理事会、評議員会、監事監査、開催状況

理事会

開催年月日	出席人数	決議事項
令和5年 6月7日(水)	理事5名 監事2名	第1号議案 令和4年度事業報告(案)及び決算報告(案)並びに監事監査報告について 第2号議案 定款一部変更について 第3号議案 諸規定一部変更について 第4号議案 理事の退任及び選任について 第5号議案 評議員会開催について 報告事項 職務執行状況報告
令和5年 6月21日(水)	理事6名 監事2名	第1号議案 理事長の選任について 第2号議案 業務執行理事の選任について

令和5年 9月13日(水)	理事6名 監事2名	第1号議案 令和5年度資金収支第1次補正予算(案) 第2号議案 諸規程一部変更 就業規則(案)、給与規程(案)
令和5年 12月6日(水)	理事6名 監事2名	第1号議案 令和5年度資金収支第2次補正予算(案) 第2号議案 諸規程一部変更 諸規程変更 経理規程(案)
令和6年 3月15日(金)	理事5名 監事2名	第1号議案 令和5年度資金収支第3次補正予算(案) 第2号議案 令和6年度事業計画(案) 第3号議案 令和6年度資金収支予算書(案) 第4号議案 諸規程一部変更 第5号議案 評議員の退任と後任候補者について

評議員会

開催年月日	出席者数	決議事項
令和5年 6月21日(水)	5名	第1号議案 令和4年度事業報告(案)及び決算報告 (案)並びに監事監査報告について 第2号議案 定款一部変更について 第3号議案 理事の退任及び選任について

監事監査

開催年月日	出席者	報告事項
令和6年 5月21日(火)	梅田昭彦 中村文雄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業報告等の監査結果 <ul style="list-style-type: none"> 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。 ・ 計算関係書類及び財産目録の監査結果 <ul style="list-style-type: none"> 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

評議員選任・解任委員会

開催年月日	委員	指導事項
令和6年 3月29日(金)	高橋善則 島村長生 梅田昭彦 中村文雄 久保内大将	第1号議案 評議員の選任について

(2) 第三者委員活動報告

事業所名	委員	件数	活動内容
特別養護老人ホーム やすらぎの家	野村慎一 村岡叔世 川渕美恵子	0件	2ヶ月に1度を実施した。運営状況、人材、コロナ感染情報、重大事故事案、不適切ケアの報告等を重点的に行った。
特別養護老人ホーム うららか春陽荘	島村長生 中山すみ恵	0件	3ヶ月に1回開催。運営状況、不適切ケア、虐待等に関し、それに付随する人員体制、環境改善の取組について報告を行い、委員より助言をいただく。 コロナ禍により、施設巡回は未実施。
うららか保育園	島村長生 上田和子 田村啓	0件	4月、5月、10月、11月、12月、1月、2月、3月(8回)実施した。 保育活動の見学および運営状況、事故・苦情等の報告等を行った。

Ⅱ 高齢者福祉事業

[1] やすらぎの家 関連事業

【総括】

今年度は、季節の変わり目にご利用者の体調不良が続き、入院者数の月間目標日数 150 日以内を若干名上回り、目標稼働率に届かなかった。要因に関しては、入所者の加齢による身体状況の悪化、身体レベル低下、医療的ニーズ上昇等による施設退所が続いたことがあげられる。また、今回在宅で入所待機している高齢者を取り巻く環境にも変化が見られ、介護度 4 以上の方はそれほど長く待機しなくても、介護医療院や他施設の特養に入れており、高知市内の介護施設の充足度合いが満たされていることも分かり、次期入所者の入所の準備に時間を要することが度々あった。今後はそこも見据えた準備・対策を心がけ対応していく。

感染症対策については、コロナウイルス感染症が 5 類に変更以降、6 月（陽性者：ご利用者 4 名、職員 1 名）、8 月（陽性者：ご利用者 5 名、S ご利用者 6 名、職員 5 名）1 月（陽性者：ご利用者 4 名、職員 4 名）の計 3 回感染隔離対策を実施した。8 月の感染時にご利用者にも多く感染者が出たが、他 2 回の感染は感染拡大にも繋がらず、感染予防委員会を中心に、PPE や環境整備・保清に努め最小で抑えることが出来た。職員の中には、過去の感染から学んだ感染時対応の変化も見られ、最短で収束に向かおうとする姿勢が伝わった。今後も感染予防委員会を中心に医療職と協力して感染症と向き合っていきたい。ただ、ご家族との交流の機会や面会の場合は、今年度も感染症が影響し直接面会出来る期間は短かったが、間接的面会を継続することで全く会えない状況は回避した。面会以外の行事再開までは達成出来ておらず次年度の課題である。

介護人材不足の状況は依然改善出来ず、貴重な介護人材流出もなかなか食い止めることが出来なかった。長引くコロナ禍の影響もあるが、重介護の大変さが離職の大きな要因であり、早急な業務見直し・介護補助用品の導入・検討が求められている。また、離職が続くことで職員の世代交代も起きており、新たなチーム作りの中で職員一人ひとりが責任を持ち、専門職としてどうすべきか考える事にこだわり、各種委員会活動にそれをひもづけ 1 年間取り組んだ。しっかり考えて意見を言う・出す事が以前より出来始めており、少しずつではあるが職員の意識は変化しているよう感じる。次年度も他職種と協力し更なるステップアップを目指し、人材不足解消にも繋げたい。

防災に関しては、1 月の能登半島地震を受け、防災 BCP を再度見直し、備蓄や職員の動き・体制を再周知したうえで、緊張感ある実地訓練が必要と思われ、次年度に向け早急に取り掛かりたい。

1. 特別養護老人ホームやすらぎの家

1. 介護部門

1年を通して接遇（言葉遣い）に関することが課題となっていた。職員には研修や個別指導などを繰り返し実施してきたが、まだ十分な改善は見られておらず、引き続き取り組んでいく。

外部研修に関しては、感染対策に努めながら、職員の実力や希望に沿った内容、新人職員は今後の実力向上を目指す内容の研修にそれぞれ参加することができた。

施設内取組の各種委員会に関しては、職員それぞれが自分の働くグループの代表として出席し、しっかり発言も出来ており、グループの現状を他部署とも共有することができた。委員としての責任を持って取り組む姿勢も見られたが、中にはまだ人任せな動きが要因で介護事故に繋がったケースもあったため、今後も職員一人ひとりが専門職としての自覚や責任を持てる指導や研修が必要である。

介助方法については、理学療法士との連携で適宜見直しを実施。積極的に職員から声上がることも多く、ノーリフティングケアが徐々に浸透し始めていると評価は出来る。しかし、まだ施設全体で考えると全グループに必要な福祉用具等の物品も充足しておらず、次年度も継続して福祉用具購入や取組みを強化していきたい。

コロナウイルス感染症は年間で3回発症したが、隔離対応中は感染予防委員会を中心に、ご利用者の保清と環境消毒、感染拡大を防ぐための勤務体制を整えることに努めた。その努力もあってか感染拡大は免れ、重症化するご利用者も少なかった。

(1号館)

各種会等で職員同士の意見交換は良く出来るようになったが、まだその内容を十分に把握・周知が十分出来ず、ケアに反映させ介護の専門性を十分発揮するところまでは達成出来なかったため次年度への課題となった。

事故予防では環境や介助方法の見直しは適宜していたものの、介護事故を食い止めることには繋がらず、ヒヤリハットを早めに活かし迅速な対応をしていく必要がある。

施設内環境に関しては、感染委員会が中心となり清掃や消毒等を警鐘・発信し継続して実施が出来ている。

(2号館)

職員一人ひとりが意見をしっかり持つことは出来たが、意見が統一せず、個別的な見解でケアをするケースも中にはあった。そういう行為が事故に繋がるため、次年度は統一したケアが出来るチーム作りが課題となっている。介助方法の見直しは積極的に理学療法士に相談し、介護事故の予防に努めることができた。リフトを使用することが職員に浸透し、ご利用者の皮下出血の減少や職員・ご利用者双方の負担減少にも繋がり良い効果が出ている。

感染症予防に関しては、感染予防委員が率先して、定期的な消毒が出来るよう各所にアルコールを準備し小まめに消毒する環境を整えた。介護職員不足の中でも、環境美化に努め、居室・廊下の清掃もほぼ毎日実施し環境面からも感染対策に努めた。

2. 介護支援専門員

- ・今年度は例年に比べ入退所が多かったため、新入所の面接、アセスメントやケアプラン、入力作業など書類整備に追われ、プランニング・モニタリング等に十分な時間を費やすことが出来なかった。

(入退所が多かった要因分析)

- ① これまで体調が安定していたご利用者が加齢により、体調に変化があったことで医療ニーズ（食事量低下・経口摂取困難・吸引・定期検査の数値の悪化によるリスク回避）が増え、施設での生活が困難となったケースが多発した。
- ② 申込者の利用者層がより重度化し、当施設で対応が可能なご利用者の選定が難航した。
(超高齢・基礎疾患が多いなど)

- ・多職種との情報共有は出来ていた。特に皮膚トラブルや事故、栄養面では密に情報共有し、対応策を一緒に考えることが出来た。

- ・コロナウイルスの影響で面会制限がある中、電話連絡や施設来所があった際、ご利用者本人の様子をなるべく細かく伝えるよう意識して取り組んだ。その際、写真や動画を活用しながら説明することもあり、ご家族には大変喜んでいただけた。

3. 医務室

- ① 職員・ご利用者の健康管理について

令和5年度入院は86件（入院後退所した利用者：41名）

朝倉さわやかクリニックを早めに受診し、検査後施設で点滴施行するなど入院に至らず治療となるいい流れが出来た。しかし、入退院を繰り返し退所となるケースや死亡退所もあり本年度の退所利用者の数は近年の中で一番多い人数であった。

以前からの課題である季節の変わり目の体調不良・不穏者・脱水・尿路感染に対し感染委員長からの取り組みや啓発活動など実施。看護スタッフが環境変化を捉えながら話し合い、啓発活動を実施する事で少しずつ改善出来ている。

今年度は常勤医を配置し、医師と連携を取りながらご利用者の健康管理に重点を置くことに努めたが、入退所者も多く次年度の課題も明確になり、今後は更に医療連携を強化しご利用者の安定した生活を支援したい。

また、看護師一人ひとりが自分の職責を果たすよう協力し合い、日常業務・他部署とのカンファレンスなどに積極的に参加して関わりを持ち、ご利用者の健康維持に努めることがで

きた。介護職員の求人難もあり、これまでより少ない職員数でご利用者を支えることが多く、介護職員の健康維持も重要な役割となっている。職員の健康診断結果では、食生活が大きく影響していると思われるケースが多く、産業医と協力し、職員に生活習慣病予防の声掛けし警鐘した。また今年度は、メンタル面にも留意し職員の健康状態の声掛けやコミュニケーション・病気への質問など気軽に相談出来る環境を提供していく必要がある。

職員の体調変化に気づき早く声を掛けアドバイスすることも医療職の課題と考える。

② 内服薬・外用薬の管理について

内服管理での誤薬事故（セットミス）は、上半期に3件あり3件とも事故状況は異なるが、発生後事故分析・検証をしっかりと行い、ダブルチェックや管理方法を見直し、その後、内服管理事故は起きず改善に繋がっている。

③ 感染対策について

ワクチンの実施（コロナ・インフル・肺炎球菌）を協力医療機関の協力の下、希望のご利用者の方のみ施設で施行（コロナウイルス予防接種年2回、インフルエンザ予防接種年1回）呼吸器感染症〔風邪等〕（上半期：4件・下半期：15件）みられ、上半期より下半期は3倍と増加あり。季節的なものを考慮するも、今後は症状が出る前からの環境整備など次年度への課題ができた。

尿路感染症は年間43件発症し、うち入院へ繋がったケースが7件であった。比較的暑い時期に多く発生しており、今後も継続的に対策・ケアが必要。医療職が中心となり感染予防員と協力し、陰部洗浄のチェック・指導を実施していく。

4. 給食室

提供食の改善・向上、ご利用者の食事に対する満足度向上のため、給食部会（毎月）、残食調査（毎日）、嗜好調査（2月実施）等の開催・実施を行いその都度、課題解決に取り組んだ。最も大きな変更事項は、医療連携・法人内での食事形態統一化の取り組みとして食事形態の見直しを行い柔らか菜の中止を実施した。給食部会を通じ多職種にて検討、中止が決定後は移行に向けた周知等行ったことで、スムーズな移行、形態変更となったご利用者の摂取量低下や、誤嚥・窒息などの問題もなく実施することができた。入退院時の情報伝達の円滑化や職員の食事形態への認識の変化など、成果を得られたと考える。

食事の満足度に関しては、嗜好調査では概ね良好な評価であった。しかし、現状への不満・改善を求める意見も聞かれている。献立の見直しや委託業者との連携など調理面の工夫や改善への取り組み。また、ご利用者ニーズの拡大や人員不足による個人対応の増加など、業務の複雑化対し、施設栄養士として委託業者とどういった取り組みをどこまで連携して行うか。これらへの対応が今後の課題である。

ご利用者に季節を感じ食事の楽しみを感じて頂く目的で年間を通した行事食・イベント食

を計画。モリグリーンフーズの協力もあり毎月実施することができた。しかし、食材費高騰への対応・改善への取り組みが不十分であった。時勢に応じた対応が必要。栄養面に関しては栄養ケアマネジメントの実施、担当者会へ参加し利用者の栄養改善・維持を目標に取り組んだが、栄養不良による褥瘡発生や食思低下での入院もあり、生活の場での栄養管理をどのように実施していくか、施設管理栄養士としてスキルアップに来年度は取り組んでいきたい。

感染対策については、施設感染対策委員会の指示に合わせデイスポ食器による食事提供、献立の変更などをおこなった。介護現場や他部署から依頼のあった個人別の対応食器・対応食など、都度依頼があった対策についてはモリグリーンフーズの協力を得つつ、連携し実施への取り組みを行い感染拡大防止に努めた。他部署の感染対策・対応への協力は行いつつ、備品の準備・献立変更など給食部門としての対応もできており、感染対策については取り組み達成できており、今後も継続していく。

【イベント食】

4月・5月	各祝日行事食
6月	開園記念日行事食
7月	七夕行事食 土用の丑の日 かば焼き実演（うな重）行事食 *かば焼き実演については他部署連携にて実施
9月	敬老の日行事食・ケーキバイキング・十五夜行事食
10月	季節の食事（紅葉蒸し、まつたけご飯、さんまの塩焼き）
11月	文化の日行事食
12月	冬至の行事食・
1月	正月料理
2月	節分行事食・バレンタインデー行事食
3月	ひな祭り行事食

5. 機能訓練指導員

- ・ご利用者の身体状態を把握し、ご使用者に適した介助方法も他職種と検討し試行錯誤しながら実施することができた。その際、福祉用具を使用しての介助方法の提案を積極的に行った。これにより、ご利用者、職員ともに体に負担のかからない介助となり、ご利用者の内出血や怪我が減り、緊張が亢進しやすいご利用者に関しては緊張の軽減がみられた。また職員も福祉用具を使用する事で体への負担が減っているとの意見も聞かれている。
- ・ノーリフティングケアに関する取り組みについては、感染対策等もあり、研修も十分に行うことができなかつた。今後は、ご利用者、職員の身体的負担が軽減できるように、より

積極的に研修も行っていきたい。

- ・車いす、クッション、マットレスの選定も行い、より快適に過ごしていただけるように取り組むことができた。このことは、ご利用者の剥離、褥瘡予防の1つの要因となった。
- ・誤嚥予防の取り組みの1つとして、嚥下機能が低下しているご利用者に対して嚥下が行いやすいように頸部の位置の調整を行う等シーティングの提案を行い、写真での提示も行った。これにより介護職員の食事姿勢に対する意識の向上がみられている。

6. 事故防止委員会

- ・無理な介助とならないように、専門職からアドバイスを受けながら、介助方法や環境の見直しを行った。
- ・2号館ご利用者の事故を受け、記録の大切さを再認識した。5W1Hなど書き方について各グループに周知した。主観を入れず実際に見たままを書きとめ、客観的な表現を心掛ける。
- ・今年度は飲ませ忘れ、配薬ミスに起因する誤薬があったが、飲ませ間違いによる誤薬が前年度に比べ多かった。服薬マニュアルにあるダブルチェックを怠ったことが主な原因であった。ダブルチェックを怠った背景として、2名で服薬介助を行うとその間、食事介助や排泄誘導が行うことができなくなることでの焦りや、服薬者・チェック者2名で介助をすること責任感が希薄になっていた。そのため現在、服薬マニュアルの見直しを行っている。

7. 身体拘束廃止・虐待防止委員会

定例会、総会は年間を通して各4回の開催を行った。総会では毎月各グループで目標を掲げ実施した評価を報告、各グループから出た取り組み案を全グループが実施するなど、現場の意見を反映し実践ができた。また、統一したケアができるようにグループで一人の対象者を決め、部署会で繰り返し評価と見直しをして、実践してよい結果に繋がった。内部研修は指針や動画での伝達、権利擁護では事例も取り入れ研修を行った。目標であった「利用者の尊厳を守り虐待0、不適切ケア0」は達成できず、言葉遣いでの不適切ケアが1件挙がっている。施設全体の問題として捉え、月間目標に掲げ委員が中心となり注意喚起をしたことで、少しずつではあるが言葉遣いに対して意識をする職員も増え他部署からは改善があるとの評価も得られた。しかし、職員が少ない中、業務に追われ咄嗟に出た言葉により十分な説明ができずに対応してしまっている現状があるので、今後の課題となってくる。

8. 感染予防委員会

今年度のコロナウイルス感染症は、1号館1階・2階、2号館2階の3回であった。各グループで感染症が発生した場合、感染解除後速やかに感染予防委員を中心に、振り返り反省会を開催し、次に活かせる取り組みに尽力した。また感染BCPを作成した事により、発生時の

各職員の役割や動きが明確になった。

その他感染症では、蜂窩織炎の罹患者1名で感染予防は出来ていたと考えられる。また、感染予防委員が陰部洗浄方法をチェックした事で、尿路感染症予防に対する介護職員の意識づけに繋がった。次年度は、新たに口腔衛生管理も始まり誤嚥性肺炎予防にも努めていきたい。

9. 褥瘡予防委員会

褥瘡発生予防と、早期発見、早期治癒を適切に行うため、各職種専門性に基づくチームケアを行うことを重点目標として取り組んだ。介護現場での情報共有による早期対応、理学療法士による早期介入や座面クッションの見直し、多職種による検討会の実施、マットレス検討などを行った。剥離発生件数は令和4年度6件、令和5年度3件。褥瘡発生件数は令和4年度9件、令和5年度5件であった。剥離、褥瘡ともに件数は減少も発生を防ぐことが出来なかった。しかし、予防に向けた早期対応、声掛けなどを介護・医務・理学療法士といった褥瘡委員中心に実施できており、予防への意識・認識への良い変化がみられてきている。今後は、現在の取り組みの継続が課題である。

【やすらぎの家 外部研修参加状況】

	研修名	参加者
6月	誤嚥予防セミナー（オンライン）	1名
7月	安全対策担当者養成研修（YouTube）	2名
8月	四国老施協研究大会	3名
9月	介護若手職員研修	1名
	介護若手職員フォローアップ研修	2名
10月	ケアリーダー研修会	1名
11月	アンガーマネジメント研修	2名
	ノーリフティングケア	2名
	ケアリーダー研修	1名
	介護報酬改正（YouTube）	2名
	介護福祉士実習指導者研修	1名
12月	介護福祉士実習指導者研修	1名
	次世代合同ブロック勉強会	1名
	介護ロボット地域フォーラム	2名
	高知病院連携フォーラム「個人防護具の着脱方法」	2名
2月	若手職員研修2回目	1名
3月	自立支援総合研修（YouTube）「口腔ケア」	5名

【やすらぎの家 内部研修参加状況】

	研修名	研修場所
4月	訓示・事業計画（施設長）	くつろぎホール
5月	服薬マニュアルの再確認（事故防止委員会①） 排泄ケア～パットの当て方（褥瘡委員会）	くつろぎホール
6月	感染予防～食中毒～（感染予防委員会①）	くつろぎホール
7月	感染予防～食中毒～（感染予防委員会①） 事故防止 緊急時の対応（事故防止委員会②）	くつろぎホール
8月	不適切ケア動画・指針 （身体拘束廃止/虐待防止委員会①）	くつろぎホール
9月	ノーリフティングケア 理学療法士	くつろぎホール
10月	不適切ケア動画・指針 （身体拘束廃止/虐待防止委員会①） PPE 伝達研修（感染予防委員会②） 防災研修 南海トラフ地震対策（事務主任）	各部署
12月	権利擁護（身体拘束廃止/虐待防止委員会②）	くつろぎホール
3月	救急救命講習（高知市消防署） 防犯研修（高知南警察署）	くつろぎホール

10. 事務部門

- ・施設の窓口として接遇に十分配慮し、明るく、親切、丁寧、迅速に対応に努めることができた。
- ・施設行事や運営等への参加、各部門との協力体制は維持できた。
- ・防災については最低限の研修・訓練は実施できたが、実効性のあるBCPの策定・見直しまでは実施できていない。

11. 生活相談員部門

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症により、地域貢献や家族会等、直接交流する行事は、検討段階で実現までには至らなかった。唯一、高知市社会福祉協議会の仲介で、地域の小学校のボランティア活動には参加することができた。
- ・入所待機者に対しては、入所指針に基づき適正に検討を行ない、入所に向けて迅速に対応できた。入所前の聞き取りについては、新型コロナウイルスの位置付けが5類になったことにより、直接、待機場所に行くことによって、より正確な情報を得ることができた。

【令和5年度 やすらぎの家 入所者状況】

市町村	高知市	土佐市	南国市	香南市	安芸市	いの町	越知町	本山町	計
男性	27	3	1	0	0	0	0	0	31
女性	68	1	0	1	1	2	1	1	75
計	95	4	1	1	1	2	1	1	106

*令和5年度3月31日現在

【年齢別人員】

性別	～64	65～74	75～84	85～94	95～	合計	最高	平均
男	0	4	14	11	2	31	96	82.6
女	0	6	19	38	12	75	104	86.8

*令和5年度3月31日現在

【入退所状況】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者	男	0	3	4	2	1	1	5	1	0	2	0	1
	女	1	4	0	0	2	4	6	2	3	3	3	0
	計	1	7	4	2	3	5	11	3	3	5	3	1
退所者	男	0	6	0	2	1	4	1	0	1	0	0	1
	女	1	4	1	0	1	5	6	2	3	6	1	0
	計	1	10	1	2	2	9	7	2	4	6	1	1
月末人	男	28	26	28	28	29	25	29	30	29	31	31	31
	女	78	78	78	78	76	76	77	76	76	73	75	75
	計	106	104	106	106	105	101	106	106	105	104	106	106

【サービス利用状況】

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4月	延べ	0	0	476	1704	737
	実利用	0	0	17	60	29
5月	延べ	0	0	443	1991	814
	実利用	0	0	16	59	29
6月	延べ	0	0	519	1753	852
	実利用	0	0	18	59	29
7月	延べ	0	0	499	1808	843
	実利用	0	0	17	61	28
8月	延べ	0	0	495	1725	841

	実利用	0	0	17	59	29
9月	延べ	0	0	433	1630	667
	実利用	0	0	16	59	26
10月	延べ	0	0	579	1684	879
	実利用	0	0	19	58	29
11月	延べ	0	0	599	1590	892
	実利用	0	0	21	55	30
12月	延べ	0	0	556	1670	853
	実利用	0	0	20	56	29
1月	延べ	0	0	565	1598	908
	実利用	0	0	19	54	31
2月	延べ	0	0	609	1624	817
	実利用	0	0	21	56	29
3月	延べ	0	0	651	1746	821
	実利用	0	0	21	57	28

【令和5年度 年間行事】

	行 事 名
5月	ランチの日
6月	防災訓練
7月	土用の丑の日
9月	敬老の日
10月	慰霊祭
2月	節分・防災訓練

*上記以外に、グループ毎に毎月の誕生日会、クリスマス会、おやつ作り等行ないました。また、3月は随時、桜の花見にドライブに出かけました。

新型コロナウイルス感染症対策の為、外部との交流のある行事は実施できませんでした。

*車椅子清掃ボランティア NTT OB 12月8日 16名

2. 短期入所生活介護（ショートステイ）

感染症予防（受入れ時の検温や検査、受入れ後の体調変化等）に努めつつ、可能な限りご利用者やそのご家族の要望に応えることができたと思われる。しかし、今年度もショートステイご利用者から新型コロナウイルス感染症が蔓延し、受入れを制限せざるをえなかった為、引き続き、感染症に対して、ご家族等からご理解していただく必要があった。

【令和5年度やすらぎの家（短期入所）サービス利用状況（介護保険請求者数による）】

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	述べ	32	42	19	90	3	186
	実利用	5	3	2	9	1	20
5月	述べ	30	32	22	58	27	169
	実利用	4	2	3	7	4	20
6月	述べ	39	33	0	89	13	174
	実利用	4	2	0	11	2	19
7月	述べ	35	43	0	91	32	201
	実利用	4	4	0	9	2	19
8月	述べ	25	81	0	39	38	183
	実利用	6	3	0	9	2	20
9月	述べ	5	40	0	33	8	86
	実利用	2	3	0	5	1	11
10月	述べ	10	25	26	56	21	138
	実利用	3	5	3	9	2	22
11月	述べ	6	27	47	41	25	146
	実利用	1	3	6	5	3	18
12月	述べ	14	13	62	48	24	161
	実利用	3	2	9	6	2	22
1月	述べ	5	2	8	6	3	24
	実利用	28	13	61	53	25	180
2月	述べ	3	2	7	6	2	20
	実利用	23	16	57	66	14	176
3月	述べ	48	34	52	89	40	263
	実利用	6	4	5	8	4	27
合計	述べ	204	340	191	557	196	1751
	実利用	89	60	146	197	62	554

3. グループホームほのぼのの家

- ① コロナ禍での面会・外出制限が続き、ご家族への連絡時にはご利用者の生活状況を細かく伝えることで安心してもらうよう努めた。面会再開後、ご利用者もご家族の顔を見て会話が出来るようになり笑顔が増えてきた。また、季節の行事や誕生日会等で、ご利用者の喜んでいる顔・声を聞きながら、職員も行事企画に創意・工夫することが意欲に繋がった。今後は市内の感染状況を確認しながら、外出行事を徐々に復活させていこうと思っている。
- ② 関係医療機関や訪問看護との連携を図り、体調変化ある時は早めの病院受診等を行う事が出来た。また、歯科受診もかかりつけ医への希望があれば、可能な限り受診や往診等働きかけ、ご利用者・ご家族の希望に沿うことができた。
- ③ 防災、防犯訓練は関係機関と連携を取り災害時等の協力体制の確認が出来た。また、地域清掃に参加することで、地域の方々と交流も再開することができた。
- ④ 職員研修については毎月の処遇部会で各委員会の研修実施、やすらぎの家の研修にも参加し、研修内容を施設で伝達研修として職員に共有を行い、全職員で知識を得ることに努めた。今後も計画的に研修に参加しサービスに活かせるよう取り組んで行く。

(1) 利用状況

介護状態	
要介護 1	3 名
要介護 2	2 名
要介護 3	4 名
要介護 4	0 名
要介護 5	0 名

年齢別人数	
80-85 歳	0 名
86-90 歳	2 名
91-95 歳	6 名
96-100 歳	1 名
101 歳以上	0 名

入居前状況	
自宅	7 名
施設	0 名
病院	2 名

日常生活自立度	
A1	4 名
A2	5 名
その他	0 名

認知症の程度	
Ⅲa	5 名
Ⅱ b	4 名
その他	0 名

【日常生活動作状況】

	歩行	食事	入浴	着脱	排泄
自力	3 名	8 名		2 名	3 名
一部	5 名	1 名	9 名	7 名	6 名
車椅子	1 名				
全介助					

(2) 入退所者・入退者状況

	入所者	退所者	入院者	退院者
4月				
5月		1名		
6月	1名			
7月				
8月				
9月			1名	
10月	1名	1名	1名	
11月				
12月				
1月				
2月				
3月				

(3) 活動状況

	活動内容
4月	誕生日会
7月	七夕行事・食事会
8月	ほのぼの夏祭り (たこやき、ちらしずし、かき氷、射的、ヨーヨー釣り、輪投げ)
9月	敬老会（歳祝い2名）
10月	誕生日会
11月	運動会・誕生日会
12月	クリスマス会
1月	誕生日会
2月	節分
3月	雛祭り・花見・誕生日会・

(4) 内部研修

研修内容	開催日	場所	参加者
身体拘束・虐待防止委員会	毎月第2木曜日	ほのぼの家	全職員
感染予防委員会	毎月第2木曜日	ほのぼの家	全職員
事故防止委員会	毎月第2木曜日	ほのぼの家	全職員

新規採用者研修	6月7日・8日	やすらぎの家	1名
	8月1日・2日		1名
	10月2日		1名
救命救急講習	3月7日	やすらぎの家	

(5) 外部研修

研修内容	開催日	開催者	場所	参加者
第1回認知症 介護実践者研修	6月26日 ～8月29日	高知県福祉協議会	高知県福祉交流プラザ	1名
第2回認知症 介護実践者研修	9月24日 ～11月8日	高知県福祉協議会	高知県福祉交流プラザ	1名
介護支援専門員 更新研修 (ZOOM)	10月20日 ～12月3日	高知県福祉協議会	高知県福祉交流プラザ	1名
管理者研修	1月11日 ～1月12日	高知県福祉協議会	高知県福祉交流プラザ	1名
介護報酬改定な どに係る研修	3月22日	高知市介護保険課	高知市保健福祉センター	1名

[2] うららか春陽荘関連事業

[総括]

令和5年度は「団結と信頼」をテーマにご利用者、ご家族に安心してもらえる施設を目指し、組織の再構築を図ることを最重要課題として取組みを行った。その前提として、事故の未然防止や再発防止、感染対策、不適切ケア等の取組みが組織的に取組めるよう、組織体制を明確にし、各部署、各職種の役割、職責を明確にし、チームとして協働できるようチーム作りを行った。その取組みとして、ビジネスツールを活用し、施設全体の情報が全体にいきわたるよう、施設内コミュニケーションの促進、情報共有を積極的に図るよう取り組んだ。また、毎週、職員会を開催し、現場の課題発信と改善、施設運営における共通認識の醸成、報告・連絡・相談の活性と定着を目的に定期開催を行ってきた。また毎夕のミーティングを実施し、日々のご利用者の状態の把握、医療と介護の連携、ご家族への情報共有、嘱託医への早期の相談、報告をより円滑に行えるよう改善が行えた。また、各種専門委員会を見直し、専門職を中とした事故の未然防止や感染対策、ケアの向上のためより現場の課題に即した対応策を講じるよう適宜、勉強会等を行うことができた。

稼働に関して、特養においてはより安定した運営を目指すよう相談員の増員をし、空所や長期入院とならないよう、円滑な入退居を協力医療機関と密に連携することで実現できた。また、入院者を出さないよう、ご利用者の健康状態の維持改善を図るため医務室や栄養課が介護部門と連携協働し、尿路感染症等の防止に取り組むことができた。在宅事業のデイ、ショートについてもこれまで以上に稼働率向上を目指し、ご利用者満足に取組み、ブログでの発信など広報活動を行い営業活動に注力し、下半期稼働率の向上が図れた。

またケアについても特養介護部門の再編を行い、ケアプランの充実を図るためご利用者本人やご家族の意向、必要としているケアを聞き取り、迅速に対応するよう取組みを行った。コロナ禍ではあったが感染対策を講じ、ご家族主体の担当者会となるようご家族の参加を促し、ご利用者の状態の共有やケアの方向性の共通理解と協力を得るよう努めることができた。

人材確保の課題については、新規採用者の離職防止のため、不安の解消を行うよう定期的な面談を行い相談しやすい環境づくりを行ったり、フォローアップ研修を企画し、同期同士の交流を図り仲間づくりに取り組んだ。また、長期目標として実習生の関わりを大切にし、丁寧に実習指導にあたることで就職に繋がり人員確保が行えた。また人事考課制度に取り組むことで半年ごとの面談の実施を行い、部署目標に基づいた取組みをチームで行うよう育成を図った。今後も継続して行っていく。

1. 特別養護老人ホームうららか春陽荘

ご利用者ひとりひとりが安心して生活できるように、多職種のチーム連携による情報の共有やケアの実施に向けての取組みを行うことができた。慢性的な職員欠員についても実習生や見学者等を受け入れたことにより成果はあった。様々な施策等が計画通りに進める事が困難な状況はあるが、施設全体で協力しあった事は学びとなり、基本や初心を体感することができた。ご利用者に安全、安心した生活をして頂くには十分とはいえない課題が残っている。今後は未然に防ぐ観点で残された課題とケアの向上に努めたい。

1. 部署間の連携強化

感染対策も行いながら、他のユニットや多職種との連携や協力体制は行う事が出来た。しかし人員不足等もあり十分ではなく強化には至らなかった。ご利用者が安全、安心に生活できる様に課題解決に向け取り組んで行く。

2. 研修体制の強化

入職者には新人研修を行い、その後のフォローアップ研修も行う事が出来た。施設内研修についてはオンライン研修が主となり短時間ではあったが多く意識付けが出来た。感染対策も行いながらグループ研修も行えたので外部研修にも繋げて行きたい。

3. 人事考課制度の取組みにより、職員との面談を行う。

年2回の面談は実施出来たが面談の時間が十分確保出来ない等の課題は残る。

【活動実績（入所定員：80名）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率 (%)	89.5	86.4	95.3	92.8	88.9	91.4	96.5	95.6	96.5	96.3	96.3	95.5	93.4
1日平均 (人)	71.6	69.1	76.2	74.2	71.1	73.1	77.3	76.5	77.2	77.2	77.0	76.4	74.7

【行事等】

開催月	内 容
4月	お花見・高知市議会議員不在者投票
5月	空調設備一斉清掃
6月	第1回消防訓練
7月	七夕飾り・田役参加
9月	敬老会
10月	運動会・空調設備一斉清掃

11月	作品展・春野中央保育園来荘・第2回消防訓練
12月	クリスマス会・大掃除・餅つき
1月	お正月面会対応
2月	節分
3月	お花見弁当・雛祭り

【外部研修】

開催月	内 容
6月	西分地区自主防災ネットワーク会 高知市社会福祉協議会 地域協働課 はるの大好きスズメ元気会総会 高知県 食と栄養の会（総会・研修会）
7月	春野町要支援者・児童・生徒地震避難対策連絡会
8月	西分地区自主防災ネットワーク会
9月	令和5年度 福祉サービス苦情解決セミナー 食と栄養の会「給食施設の食中毒予防対策について」
10月	安全運転管理者講習 ユニットリーダーケア研修（実地） 本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修（オンライン） 高知県民間社会福祉施設職員退職手当共済事業における年金支給事務説明会（オンライン）
11月	介護報酬改定対応研修（介護施設・事業所における虐待防止及び身体拘束等の適正化について）オンライン研修
1月	高知家 さらなる高みへ（ノーリフティングケアが目指すもの）
2月	令和6年度社会福祉施設総合保険制度説明会 第6回 高知家 ノーリフティングフォーラム
3月	高齢者施設等向け「火災体験研修」 令和5年度 給食関係者研修会 2024年 介護報酬改定セミナー

【内部研修】

開催月	内 容
4月	新年度式
6月	感染対策委員会研修1回目「尿路感染の予防」 褥瘡予防委員会研修1回目「高齢者施設で取り組む褥瘡管理」
9月	身体拘束・虐待防止委員会研修1回目
11月	感染対策委員会研修2回目「介護施設における感染対策について」
1月	褥瘡予防委員会研修2回目「簡単なOHスケールの判定方法」・「OHスケールの判定でわかるマットレスの選択方法」
2月	身体拘束・虐待防止委員会研修2回目

2. 短期入所生活介護うららか春陽荘（ショートステイ）

1. 在宅生活継続の支援

在宅生活の延長線上にサービスがあるということを念頭に置き、サービス時は状態を観察し、ご利用者、家族様のニーズにお応えできるよう努めた。ご利用者個々の日常生活の動作が維持できるよう、自立支援を目指し、体操のビデオ等を見ながら一緒に体を動かしてもらい機会を設け、感染対策も行いながら可能な範囲で筋力アップを試みた。

2. ご家族支援

送迎時や、入所前の連絡等により、家族様ともコミュニケーションを図り、信頼関係を深められるよう、情報共有のみならず、気兼ねなく相談していただける関係性を築けるよう努めた。

3. 稼働率の安定

居宅介護支援事業所には評価を頂けるような情報の提供等が行えるよう心掛け、信頼、安心して利用して頂けるよう努めた。新規ご利用者の確保、当施設だから頼めると言うような声も頂き、稼働率を上げる事が出来た。また併設する他のサービス事業所との連携も図る事が出来た。

【活動実績 利用定員：10名（令和3年2/7～定員10名）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 (人)	8.1	7.8	7.3	7.2	8.3	7.9	7.2	9.0	8.4	8.8	8.0	8.8	8.1
稼働率 (%)	81.0	78.0	73.0	72.0	83.0	79.0	72.0	90.0	84.0	88.0	80.0	88.0	81.0

3. デイサービスセンターはるかぜ

新型コロナウイルスの感染症の位置づけが、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行したが、以前と変わらず感染対策に配慮しながら保育園や幼稚園との交流、季節の行事等様々な活動を行う事が出来た。また、体操や施設内歩行等の生活動作訓練、創作や脳トレ、園芸など個別活動等、継続して取り組めた。しかし、コロナウイルス蔓延に伴い、行事の中止や規模の縮小など意欲向上に繋がりにくい場面もあった。

接遇において、職員間で不適切な言葉遣いがあった際は注意を行いながら、自身の言葉遣いに対する意識付けができたと感じるが、業務が忙しくなると不適切な態度や言葉が出ている事もあった。今後も、ご利用者、ご家族との信頼関係の構築の為、接遇を意識した対応を継続していく。

介護事故においては、ご利用者の状態把握が不十分であった事が原因となった転倒事故、職員の確認不足による誤薬事故が発生し、重大事故となった。事故を未然に防ぐ為、ご利用者の状態観察による気付きや、確認等のリスクマネジメント能力の向上と職員間の情報共有、連携の強化が必要である。

運営に関しては、ショートステイと連携を行い、ショート利用のご利用者をデイの体験利用に繋げる等の営業を行い、新規利用者の獲得に努め、徐々にではあるが利用者数が増加傾向に向かっていた。だが、コロナ陽性者が職員やご利用者にあり、感染予防のため利用を控えていただくことや入院者が多くあり、1年を通して目標を達成する事ができなかった。今後、在籍のご利用者の利用日を増やす事や、新規利用者獲得が課題となった。

【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均 (人)	14.9	16.0	15.5	14.8	15.8	16.1	16.5	16.8	17.3	15.3	18.0	18.3	16.3
稼働率 (%)	49.7	53.3	51.7	49.3	52.7	53.7	55.0	56.0	55.7	50.8	56.7	61.0	54.3

【外部研修】

開催月	開催地	研修名	主催者	参加者
7月	オンライン	高知県高齢者、障害者虐待防止・権利擁護研修	高知県社会福祉協議会	1名
9月	高知市	苦情セミナー	高知県社会福祉協議会	1名
10月	オンライン	通所サービス事業所の屋外でのサービス提供に関する考え方について	高知県社会福祉協議会	1名

【内部研修】

開催月	研修内容
4月	事業計画
6月	感染予防（尿路感染症）
8月	介護事故防止
	褥瘡予防
9月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
10月	感染症予防（季節性食中毒と手指消毒）
12月	褥瘡予防
2月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
	事故防止（重大事故の認識について）

4. デイサービスセンターそよかぜ

認知症の症状を理解することだけでなく、個々のご利用者の生活歴や価値観、日々の関わりからご利用者の思いを深く知り、根拠に基づいた統一したケアを行えるよう、職員間で情報共有を行い、周辺症状の軽減や安心して過ごせる環境を提供するように努めた。前年度は、そよかぜ勉強会を継続出来なかった。今後もご家族を含めた支援や専門性の高い認知症ケアを提供することを目的に、勉強会を再開、実施していく。

ご家族支援では、送迎時に何気ない会話からコミュニケーションを図り、介護での悩みごとの相談を受ける事や、職員を名前で呼んで下さる等、職員との関係性に変化はみられたものの一部のご家族に限る為、連絡帳の有効活用やそよかぜ通信を再開し継続的に発信を行い、情報共有しご家族の負担を共有、軽減できるように努めたい。

運営に関しては、居宅介護支援事業所に足を運び、新規利用者獲得に努め、前年度と比べると稼働率は上がっているものの目標には届かず、今後も継続して小まめな情報共有等を行い居宅支援事業所との関係を築き新規獲得へ繋げる。

【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均 (人)	7.2	5.7	6.7	6.1	6.7	7.4	8.2	7.6	7.0	6.1	6.8	7.8	6.9
稼働率 (%)	60.0	47.5	55.8	50.8	55.8	61.7	68.3	63.3	58.3	50.8	56.7	65.0	57.8

【外部研修】

開催日	開催地	研修名	主催者	参加人数
9月	高知市	苦情解決セミナー	高知県社会福祉協議会	1名
10月	オンライン	通所サービス事業所の屋外でのサービス提供に関する考え方について	高知県社会福祉協議会	1名
10月	高知市	権利擁護	高知県社会福祉協議会	1名
2月	オンライン	権利擁護	高知県社会福祉協議会	1名

【内部研修】

開催月	研修内容
4月	事業計画
6月	感染予防対策（尿路感染）
8月	介護事故防止
	褥瘡予防
9月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修
10月	感染予防対策（季節性食中毒と手指消毒）
12月	介護事故防止
	褥瘡予防対策
2月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修

5. 高齢者住宅等安心確保事業（横浜ニュータウン）

高齢者の方も増えてきており、通院や入退院をされる方々も増えてきた。巡回する際には世間話等もしながら健康状態を確認し、注意喚起する事が出来た。相談者を居宅介護支援事業所やその他の関係機関に繋ぐ事が出来た。

新型コロナウイルスの感染状況から感染対策もしっかり取りながら4月よりいきいき百歳体操を再開した。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生活指導	実	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	延	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
安否確認	実	21	21	21	21	21	21	20	20	20	20	20	20	246
	延	235	250	278	227	252	221	231	206	223	193	217	228	2761
家事援助	実	9	10	9	8	8	12	9	8	10	9	5	10	107
	延	37	42	54	40	51	64	62	45	52	59	36	62	604
緊急時対応	実	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関係機関との連絡	実	1	3	5	1	1	2	2	1	1	0	1	0	18
	延	1	4	5	1	1	2	2	1	1	0	1	0	19
その他	実	9	8	8	8	6	7	6	6	5	5	7	5	80
	延	29	24	32	26	24	21	16	19	15	15	13	18	252

6. うららかキッズガーデン

4月当初3名からのスタートとなり定数確保にむけ継続して営業活動をしていく。保護者とは情報交換を密に行い、生活習慣や発育について個々に応じた支援を行う事ができ次年度にもつなげていきたい。コロナ禍でもキッズのみで各行事を行い施設行事も見学する事ができた。事業所特性でもある高齢者との交流は昨年続き新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。

【入所児童数 定員 11名】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職員	0歳							1	1				
	1歳												
	2歳												

地域	0歳									1	1	1	1
	1歳	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3
	2歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		3	3	3	3	3	3	3	4	5	5	5	5

- ① 個々の健康状態や子どもたちの様子を見て、日々の計画や保育士の配置を変更するなど柔軟な保育を行った。異年齢児との関わりの中で大きな成長が見られた。
- ② 保護者とは送迎時の会話や連絡帳を通して、園での様子を細かく伝え育児相談を受けることも多く保育士として専門性を生かした助言や個々に応じた支援を行う事が出来た。
- ③ 職員間では、月1回の職員会議 毎日のミーティング 伝言ノートを活用して共通理解を図った。
- ④ 令和5年度意見受付対応件数 0件

【研修参加状況】

	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加者
4	高知市	第1回乳児保育研修	乳児の保育・保健・栄養の基礎知識の習得	高知市保育幼稚園課	0
6	高知市	プール管理講習会	プールの安全と衛生管理	高知市保育幼稚園課	1
6	高知市	食育研修会	給食における衛生管理 備蓄の必要性	高知市保育幼稚園課	1
6	高知市	乳児保育研修	保育所の役割について	高知市保育幼稚園課	1
7	高知市	アレルギー対応研修	アレルギー発生時の対応について	高知市保育幼稚園	1
10	高知市	救命救急講習会	救命救急の演習	高知市保育幼稚園	1

【キャリアアップ研修】

マネジメント	1名
保護者支援・子育て支援	1名
保健衛生・安全対策	1名
障害児保育	1名
食育・アレルギー対応	1名

[3] 在宅介護センターわかくさ関連事業

1. デイサービスセンターくつろぎの家

4月より365日営業から日曜日を休みとし、事前に日曜日利用されていたご利用者、ご家族、居宅等に説明を行い、引き続きくつろぎの家を利用して頂けるよう他の曜日への移行をお願いし、稼働率の維持に努めた。10月、11月は新規利用者が増えた事や退院され利用再開となるケースが重なった事により、1日平均利用者数が20名に達していたが、12月以降には、入院や在宅復帰が難しく利用中止となるケースが増え、稼働率が維持できていない。また、8月には事業所内にてコロナによるクラスターが発生した為、最も低い平均利用者数となっている。

新規利用者を確実に獲得する為に、体験利用に来られる方に関しては、事前に職員間で情報を共有し、状態や趣味等を職員個々が把握し、くつろぎの家を利用したいと思って頂けるように努めたが稼働に反映されていない為、新規利用者獲得が今後も課題である。また、体調不良等の場合はすぐにご家族やケアマネージャーにも連絡を行い、早期受診へ繋ぐ事が出来たが、自宅での転倒による入院が数名、入院を防げなかったケースもあった。住み慣れた自宅での生活を、安全に過ごして頂けるよう、今後も個別での歩行訓練等もご利用者の状態に合わせて、その都度検討していく事が重要である。

全体のレクリエーションでは、脳と身体への刺激を考えホワイトボードを使用したクイズ等と、テレビ動画にて、音楽に合わせたリズム体操を取り入れた。毎月のカレンダー作りでは、ご利用者と職員の交流を図りながら創作を行い、普段は席が離れており会話をあまりしないご利用者同士で取り組む機会も作り、職員が会話の橋渡しをしながらコミュニケーションも図る事が出来た。また、身体機能維持の為、平行棒を使用した歩行訓練や手指訓練、ペダル漕ぎや滑車等を準備し職員同士で話し合いを行い、ご利用者一人ひとりに合わせたメニューを考え実施した。ご利用日に継続して行う事により、「足がつりにくくなった」「今日もやらないかん」との声も聞かれ、意欲向上にも繋がったと考える。2ヶ月に1回開催の昼食バイキングは、ご利用者から「毎月にしてほしい」「次のバイキングはいつ？」との声が多数聞かれていた為、毎月開催とし、ご利用者からの希望メニューを取り入れながら献立を考え、食材発注の際には食品ロスも考慮し、やすらぎの家管理栄養士と相談しながら工夫して行っている。

【要介護度別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	16	16	16	16	15	14	17	16	15	10	12	9	172
要介護2	10	9	10	11	12	11	11	14	12	12	12	14	138
要介護3	5	6	6	7	6	6	8	8	9	10	9	9	89
要介護4	7	5	4	4	4	4	5	5	4	4	4	5	55
要介護5	2	4	4	4	4	4	5	5	4	5	4	4	49
合計	40	40	40	42	41	39	46	48	44	41	41	41	503
1日平均	18.8	17.9	18.4	17.5	14.9	16.7	19.8	19.9	18.6	16.9	17.7	17.5	17.8
平均介護度	2.2	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.2	2.5	2.3	2.4	2.2

【総合事業利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	13
要支援2	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
合計	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	22

【職員研修報告】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	事業計画・接遇について	
5月	介護技術について	
6月	リモート勉強会「感染症・食中毒防止について」	認知症介護実践者研修（1名）
7月	リモート勉強会「介護事故の防止について」	
8月	リモート勉強会「ハラスメントについて」	
9月	リモート勉強会「防災について」	
10月	リモート勉強会 「感染症・虐待・身体拘束廃止について」	
11月	リモート勉強会「歯周病について」	
12月	リモート勉強会「高齢者虐待・身体拘束について」	BCP作成研修会（自然災害編） （1名）
1月	勉強会（感染予防にて中止）	認知症介護実践者研修（1名）
2月	リモート勉強会「認知症ケアについて」	BCP作成研修会（感染症編）（1名）
3月	リモート勉強会「緊急時の対応について」	

【行事等】

4月	誕生日会・創作・バイキング
5月	誕生日会・創作・バイキング・母の日
6月	誕生日会・創作・バイキング・父の日
7月	誕生日会・創作・バイキング
8月	誕生日会・創作・バイキング
9月	誕生日会・創作・バイキング・敬老会
10月	誕生日会・創作・バイキング・焼き芋
11月	誕生日会・創作・バイキング・ミニ運動会
12月	誕生日会・創作・バイキング・年忘れ会
1月	誕生日会・創作・バイキング・お正月
2月	誕生日会・創作・バイキング・節分
3月	誕生日会・創作・お花見

2. デイサービスセンターわかくさの家

認知症の症状を理解するとともに、個々のご利用者の生活歴や価値観、日々の関わりからご利用者の思いを深く知り職員間で情報共有を行った。そして、周辺症状を未然に防ぐことを重点的に統一したケアを実施し、安心して穏やかに過ごせる場所の提供を心掛けた。

また、在宅生活を支えてくれているご家族を支援するため、送迎時にはご家族とのコミュニケーションを積極的に図り、ご自宅での生活状況や日々の状態把握に努めると同時に、より専門性の高い認知症ケアを提供できるよう、定期的に認知症の勉強会を実施、内部研修では自事業所の取り組みを紹介することも行った。

残念ながら積極的な地域交流の再開はできなかったが、事業所内で感染対策を取りつつ、形を変えながら行事や活動を行うことでご利用者の「笑顔」の場となることができ、職員の喜びに繋がることのできたと感じている。

運営に関しては、上半期に施設入所のご利用者が多く、新規利用者の紹介あったが稼働率は上がらない結果となった。また、曜日により利用者数のばらつきがあり、空き曜日への新規利用者獲得が課題となった。

【行事等】

4月	誕生会・クッキング
5月	誕生会
6月	おやつクッキング・防災訓練
7月	誕生会・七夕飾り

8月	誕生会・おやつクッキング・ミニ夏祭り
9月	敬老会
10月	誕生会・おやつクッキング・ミニ運動会
11月	誕生会・介護の日
12月	誕生会・おやつクッキング・クリスマス会・防災訓練
1月	誕生会・わかくさ神社
2月	誕生会・おやつクッキング
3月	年度末プレゼント・お花見ランチ

【要介護利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	7	7	8	10	10	10	9	10	10	10	9	8	108
要介護2	4	4	4	5	5	6	5	5	4	4	6	6	58
要介護3	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	3	3	49
要介護4	3	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	29
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	19	18	19	21	21	22	20	21	21	21	21	20	244
1日平均	8.8	8.3	8.9	9.4	9.1	8.8	9.5	10.1	9.6	9.2	9.9	9.7	9.3
平均介護度	2.2	2.1	2.1	1.9	1.9	1.9	2.0	1.9	2.0	2.0	2.0	2.1	2.0

【職員研修報告】

	内部研修	認知症勉強会	外部研修
4月	事業計画・接遇について		
5月	介護技術について	認知症の定義と原因疾患、 中核症状と周辺症状の理解	
6月	食中毒予防について	認知症の人のアセスメント (センター方式)	自立を目指すケア研修 (1名)
7月	介護事故について	認知症の人のアセスメント (ひもときシート)	
8月	ハラスメント防止について		自立を目指すケア研修 (1名) 高齢者虐待防止・権利擁護 研修(1名)

9月	防災について	認知症の人のコミュニケーション（ユマニチュード）	福祉サービス苦情解決セミナー（1名）
10月	感染症対策について 虐待防止・身体拘束廃止について	認知症ケアの倫理と権利擁護	自立を目指すケア研修（1名）
11月	歯周病について （外部講師）	認知症の人の行動の背景を理解したケアの工夫	
12月	虐待・身体拘束廃止について	認知症の人の家族への支援	BCP作成研修会（自然災害編）（1名）
1月	※感染拡大予防にて中止	認知症の薬物療法と非薬物療法	
2月	認知症ケアについて		BCP作成研修会（感染症編）（1名）
3月	救急法について	認知症ケアの多職種協働と地域連携	BCP訓練セミナー（1名）

3. 小規模多機能型居宅介護わかくさ

本年度も感染対策遵守に努めたが、1月にご利用者が感染経由となり新型コロナウイルス感染のクラスターが発生、職員への感染は1名のみにとどまったが、2週間程のサービス縮小を行った為、ご利用者、ご家族又、センター内の他事業所には大きな不安とご迷惑をお掛けする事となった。以降、朝・昼・夕の送迎車内での座席及びホール内での座席の記録を行う様にし、体調不良者が発生した際は早期に接触のあった方を分け感染拡大を防ぐ様に努めている。今後も早期発見、早期対応に努めクラスター発生を防ぎたい。

全国的には新型コロナウイルスの感染増加が断続的にあり、地域の行事への参加は断念せざるを得ない状況であったが、運営推進会議に関しては感染の動向を見ながら予防対策に努め開催する事が出来た。まだまだ希薄となっていた地域との関係性を取り戻す事は出来ていないが、来年度は感染予防を対策し地域行事への参加もしていきたい。

経営的には目標まであと少しという所であった。長期入院が見込まれる際は早めに対応し昨年から比べると1ヶ月を超える入院者は減っているが全くなかった訳ではない為、来年度も継続して入院者には早期の対応を継続していきたい。本年度はご利用者の入れ替わりが激しく待機者がいない状態となっており、新規相談はコンスタントにあったが急ぎのケースが多く、タイミングが合わなければ断るしかない状況で待機者に繋がっていない。そんな中でも登録定員を維持出来たのは自居宅や包括からの協力があつたからだと考える。今後も、自居宅、包括の協力を得ながら他事業所、医療相談室等へのアピールに努め密な関係を築き、待機者の確保を図りたい。平均介護度は年度当初から徐々に上がってはきたが、新規相談の平均介護度が下がってきている事もあり目標には達していない。今後の対策としては、登録中

の介護度の高いご利用者は身体的に不安定な方が多い為、体調管理をしっかり行い状態を安定させ、少しでも長く利用して頂く事、また、登録解除者と新規登録者の介護度に差異のない様努めていきたい。

【行事】

4月	ドライブスルー花見・誕生会
5月	誕生会
6月	誕生会・運営推進会議（第1回）
7月	誕生会・運営推進会議（第2回）
8月	誕生会・小規模わかくさよさこい祭り
9月	敬老会・・・誕生会・運営推進会議（第3回）
10月	誕生会・お買い物体験イベント参加（ユニクロ）・防災訓練（自主訓練）
11月	誕生会
12月	誕生会・クリスマス会・防災訓練（自主訓練）・運営推進会議（第4回）
1月	新型コロナウイルスクラスターにて全ての行事・運営推進会議中止
2月	誕生会・運営推進会議
3月	誕生会・運営推進会議

【介護度別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
要介護1	6	7	5	5	6	5	5	6	6	6	5	6	68
要介護2	6	6	7	7	8	7	8	7	7	7	8	8	86
要介護3	6	6	8	9	7	8	7	7	7	6	6	6	83
要介護4	9	7	6	7	6	7	7	7	7	8	9	8	88
要介護5	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	15
合計	29	27	27	29	28	28	29	29	29	28	29	29	341
平均介護度	2.75	2.59	2.66	2.72	2.57	2.71	2.75	2.72	2.72	2.67	2.75	2.65	2.69

【機能別延利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通い	457	427	396	433	461	436	438	437	445	346	398	440	5114
訪問	673	627	660	730	597	667	771	747	734	660	624	705	8195
宿泊	131	114	79	65	102	109	118	126	114	94	96	123	1271
合計	1261	1168	1135	1228	1160	1212	1327	1310	1293	1100	1118	1268	14580

【研修報告（内部・外部）】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	リモート勉強会「事業計画・接遇」	
5月	リモート勉強会「介護技術」	
6月	新規採用者研修（1名） リモート勉強会「食中毒について」	自立ケア研修（1名）
7月	リモート勉強会「介護事故」	
8月	リモート勉強会「ハラスメント」	自立ケア研修（1名）
9月	リモート勉強会「防災」	
10月	新規採用者研修（1名） リモート勉強会「季節感染症」	自立ケア研修（1名） BCP作成研修会（1名） 年金支給事務説明会（1名）
11月	リモート勉強会「歯周病について」	BCP作成研修会（1名）
12月	リモート勉強会「身体拘束・虐待」	BCP作成研修会（1名）
1月	リモート勉強会（新型コロナウイルス 感染拡大にて中止）	
2月	リモート勉強会「認知症」	
3月	リモート勉強会 「緊急時の対応・救急法」	介護保険改定説明会（2名）

4. くつろぎの家 訪問入浴サービス

令和5年度における新規利用者は16名。入院等により利用者数が減少した月もあったが、各居宅及び関係機関へ直接営業を行い空き枠状況等、提示する事で依頼件数を増やす事ができた。

令和5年12月末で他事業所が閉鎖となりその関係での依頼者数が急増。すべての依頼者を受け入れる事は出来なかったが、可能な限り調整行い受け入れた事で前年度と比較すると稼働率を向上させることができた。その反面、介護度の高い重度の方が増えた事により、長期入院やショートステイを利用される方も増え、空き枠が出来るケースも少なくなかった。今後、長期入院等の空き枠をどのように活用し安定した稼働率に繋げる事ができるのか？という課題も残った。

また、職員の体調不良等が続いた時期があり、他事業所からの応援職員でも統一した援助が行えるよう基盤を作っていく必要性を感じた。また、今年度は「満足度調査」をご利用者及びご家族に対しアンケート形式で行い、日頃、聞くことが出来ない貴重なご意見を頂き、入浴サービスの資質・意識向上に繋げる事ができたため、今後も継続して実施していきたい。

【介護度別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	4
要介護2	8	5	6	2	0	0	0	0	0	0	0	1	22
要介護3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護4	19	19	22	21	21	22	21	12	17	15	16	20	225
要介護5	49	51	49	46	70	61	65	59	65	61	49	54	679
障害	8	9	6	4	5	4	4	5	4	7	9	7	72
計	85	84	83	73	96	87	90	79	86	83	74	82	1002
1日平均	4.3	4.2	3.8	3.7	4.4	4.4	4.4	4.0	4.1	4.3	3.9	4.1	4.1
平均介護度	4.4	4.5	4.5	4.6	4.8	4.7	4.8	4.7	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7

【職員研修会】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	事業計画・接遇について	
5月	介護技術について	
6月	食中毒予防について	
7月	介護事故について	

8月	ハラスメント防止について	
9月	防災について	
10月	感染症対策について 虐待防止・身体拘束廃止について	
11月	歯周病について（外部講師）	
12月	虐待・身体拘束廃止について	
1月	※感染拡大予防にて中止	
2月	認知症ケアについて	
3月	救急法について	

5. 高知市在宅介護支援センター あさくら（居宅介護支援事業所）

1. 心豊かな生活の表現

令和5年度は新型コロナウイルスと共存していく生活スタイルとなっていく中で以前のように介護保険サービスを使い、生活を支援してもらいながら住み慣れた地域で過ごすご利用者も見られるようになってきていた。コロナの時期もあり、介護者の介護負担増大する事もあって、サービスの利用率は増大傾向になってきている。介護保険サービスの利用をされるご利用者も増えてきており、コロナの影響でサービスの利用を見合わせていたご利用者も利用再開していく傾向もあり、ご利用者の身体機能低下の防止、介護者であるご家族への介護負担の軽減にも重視しながら支援する事が出来ていた。

2. 介護支援専門員としての質の向上

事業所内での週1回の定例会は実施出来ています。困難なケースに関しては一人で悩まずに事業所内の主任介護支援専門員を中心に全員でケアマネジメントの方向性やサービスの適正を確認出来ていました。今年度は新人介護支援専門員の加入もあり、各職員が交替で指導・人材育成に努め、担当ケース数を増加する事が出来た。質の向上の研修では各職員が積極的に参加する事で学べ、また事業所内の定例会で伝達する事で全介護支援専門員にも理解を得る事が出来ていた。まだコロナ禍の影響もあり、リモートでの研修も多く見られたが積極的に参加する事が出来ていた。

3. 関係機関との連携強化等

同センターに併設の朝倉地域包括支援センターと共にご利用者の相談に協力しご利用者の獲得も積極的に実施する事が出来た。併設の部署でもある朝倉包括とは連携も取りやすく、相談もしやすい為、共に行動する事も出来ており、ご利用者にとっても安心して相談出来る体制作りが出来たと思います。地域とのつながりの部分ではコロナ禍の影響している事もあり、地域交流という部分では機会は少なくなってきており、あまり交流を図る機会はなくな

っているというのが現状でしたが、朝倉包括からの依頼は出来る限り多く受け付ける事が出来た。

医療機関との連携の部分ではコロナ禍の時ほどは入院中のご利用者にもお会いする事が出来ない事はなく、サービスの調整がスムーズ出来るようになりつつある。また、リモートによる面会や病院 PT による退院前家屋調査での申し送りを細かく報告して下さる事でサービス調整する事もあったが退院後に再度、アセスメントにより再調整する事もあまり必要なくなってきた。

4. 新規利用者様の確保・相談援助

ご利用者の確保に関しては併設の朝倉地域包括支援センターからの依頼や一般の方からの相談、病院地域連携室からの依頼により、連携を取る事が出来ました。朝倉包括からの依頼は月平均で約7件～10件程の新規利用者を支援させて頂く事が出来ていた。令和5年度では積極的に新規依頼も受け付ける事が出来ており、介護支援専門員6名体制で稼働率向上に繋がった。

【介護度別請求件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	96	92	95	94	95	96	99	98	95	92	101	94	1147
要介護2	44	43	44	45	44	47	44	51	48	48	52	56	566
要介護3	27	27	29	26	23	22	23	26	24	23	25	25	300
要介護4	15	16	17	19	18	17	17	17	15	14	13	11	189
要介護5	7	8	10	8	10	8	8	10	8	8	7	8	100
計	189	186	195	192	190	190	191	202	190	185	198	194	2302
平均介護度	1.9	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9
予防・総合	34	30	33	38	40	43	44	43	46	56	55	54	516
合計	223	216	228	230	230	233	235	245	236	241	253	248	2818

【職員研修等】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	勉強会「事業計画」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 介護支援専門員定期総会（1名） 地域ケア介護（1名）
5月	勉強会「介護技術」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（2名） 介護予防支援従事者研修会（1名） 介護支援専門員資質向上研修（1名）

6月	勉強会「食中毒予防について」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 地域ケア会議（1名）
7月	勉強会「介護保険事業者研修」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（2名） 介護支援専門員資質向上研修（1名）
8月	勉強会 「ハラスメントについて」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） ケアマネジメント研修（1名） 地域ケア会議（1名）
9月	勉強会「防災について」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（2名） 権利擁護と税のセミナー（1名） 高齢者こころのサポーター養成講座（1名） 介護支援専門員資質向上研修（1名）
10月	勉強会 「季節性感染症について」	多職種連携研修会（1名） 高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 通所介護の屋外でのサービス提供について（6名） 地域ケア会議（1名）
11月	産業医の見える化 内部研修 外部講師による「歯周病について」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（2名） 難病学習会「筋委縮性側索硬化症」（2名） 認知症の人の意思決定支援（1名） 高知市ケアマネジメント研修会（1名） 介護支援専門員資質向上研修（1名）
12月	勉強会「身体拘束・虐待」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 地域ケア会議（1名）
1月	※感染症拡大により中止	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（2名） ケアマネジメント研修（3名） 難病学習会「進行性核上性麻痺」（1名） 介護支援専門員資質向上研修（1名）
2月	勉強会「認知症について」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 難病学習会（2名）
3月	勉強会「救急法」	ケアマネジメント基礎研修（1名） 複数事業所事例検討会（6名） 介護支援専門員資質向上研修（1名）

6. 高知市朝倉地域包括支援センター

新型コロナウイルス感染症対策が 5 類に移行となり、地域活動が少しずつ再開となった。感染対策に留意し地域に出向き住民活動の支援や介護予防啓発を行い、地域における高齢者福祉の拠点としての活動に努めた。

地域包括支援センターとして受託後、約 2 年経過、来年度に向け契約更新手続きを行った。ケアマネージャーや生活支援コーディネーター、事務員配置が可能となるため、業務整理を行い、効率的に事業を進め効果をあげていく必要性を感じている。

1. 総合相談・支援

地域住民や関係機関からの個別相談には、できるだけ早期に的確に状況把握を行い、さまざまな制度や地域資源の活用を検討、職員間でより良い支援を協議し対応した。

令和 4 年度の相談実人数 1,392 名、対応延べ件数 8,960 件であったのに比較し、令和 5 年度は相談実人数 1,590 名、対応延べ件数 9,146 件で年々増加傾向。住民や関係機関への地域包括の浸透を感じている。

2. 権利擁護、高齢者虐待防止支援

令和 5 年度虐待疑いの通報受理・対応件数は 17 件。虐待認定された件数 12 件。昨年度と比較し通報・対応、認定ケース共に増加。支援については、基幹地域包括に報告相談しながら対応、事例を重ねながら対応力向上に努めている。

地域住民や関係機関へ的高齢者虐待予防や早期発見についての普及啓発も実施しており、虐待疑い通報増加につながっているのではと考える。

3. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

個別ケース支援を通じ介護支援専門員や医療機関との連携や協力体制強化に努めた。介護支援専門員支援対応件数、年間延べ 288 件と増加。

4. 在宅医療・介護連携推進に関する業務

入退院引継ぎルールに関する研修会や高知西病院の入退支援会議に参加、連携に関する課題の提言を実施した。

5. 生活支援体制整備事業

朝倉第二小学校区地域内連携協議会地域課題把握部会や朝倉まちづくりの会・医療生協朝倉みなみ支部活動に参加、地域課題の把握を提言し、解決策の検討を住民と共に実施。事業化には至っておらず、今後も住民や関係機関と協働し取り組んでいく。

6. 認知症総合支援事業等に関する業務

認知症初期集中支援事業へ事例 5 件提出。適切な支援に繋がっていない認知症の方やその家族への早期診断・対応に向けた支援が行えるよう努めた。

認知症啓発のサポーター養成講座・学習会は各 1 回のみ実施。他業務との兼ね合いもあり、啓発活動が積極的に実施できなかった。

認知症カフェの再開や新規開催に向けて、既存の団体や住民に働きかけたが開催には至らず。来年度以降、戦略の見直しをしていく。

認知症地域推進員としては、設置していたものの活動は実質できておらず、今年度、基幹型地域包括支援センターの支援で市全体の推進員が協議、活動の検討をし始めたところである。

7. 地域ケア会議推進事業に関する業務

偶数月の定期的地域ケア会議は予定通り開催。随時の会議開催は未実施。地域ケア会議開催後には、ブロック会で推進会議を実施、地域課題の整理を行った。また、朝倉地域包括単独でも推進会議を 1 回実施。今後の推進会議の開催方法については市と検討中。

8. 一般介護予防事業

自立支援に関する啓発や栄養改善活動の啓発活動機会を捉えて計 9 回実施。

百歳体操会場の再開支援を 1 ヶ所できたが、全体的に百歳体操会場への訪問回数は少なかった。個別ケース対応時や様々な機会に、意識して地域包括の啓発や百歳体操の紹介を行い、啓発は 17 回実施、百歳体操へは 8 件つなぐことができた。

7. 生活援助員派遣事業（シルバーハウジング若草町）

若草南町の市営住宅内のシルバーハウジングの入居されている方を中心に、日常的な相談や介護の相談、安否の確認等を関係機関と連携をとりながら活動を行ってきた。

新型コロナウイルス感染症が 5 類移行となったが、訪問対応については、引き続き感染対策を行いつつ、安否確認等を行った。

また、新緊急通報システム導入後、導入業者と連携を取りながら対応を行った。

○活動内容

生活指導・相談	安否の確認	一時的な家事援助	緊急時の対応	関係機関との連絡	その他
26 件	1,070 件	2 件	15 件	4 件	242 件

緊急通報・・・誤作動（1 件）

緊急対応（1 件）

Ⅲ 児童福祉関連事業

【総括】

急速な少子化の進行から園児数は減少しており、令和5年度は定員割れとなった。

令和5年度4月、新入園児8名を迎え、定員130名に対し園児数104名でスタートした。年度途中に、0歳児11名、2歳児2名、5歳児1名、総数13名を受け入れ、年度末の園児数は116名となった。退園・転園は、保護者の転勤や引っ越しにより年度途中に2名、年度末に8名が転退園した。

令和5年5月、新型コロナウイルス感染症は五類感染症に移行したが、感染拡大の波がある中、インフルエンザ、A群溶結性連鎖球菌咽頭炎、アデノウイルス等の感染もあり、これまで同様、感染防止に努めてきた。これまで、コロナ禍により密を避けるために保護者に保育を公開する機会を制限してきたが、感染の動向を確認したうえで、行事は段階的に制限をなくして実施するようにした。

いずれの行事も人数制限はせずに案内し、3世代で来園する家庭も多かった。親子で行事に参加し楽しむ中で、子どもの成長を喜ばれた。また、異年齢の子どもたちの姿を参観することで、我が子の成長の先の姿を想像していた。

日頃からの園の感染対策および保護者の協力により、密集しやすい行事でも感染が拡大することはなかった。また日々の保育において、感染症に罹患する子どもはいたが、園内で感染が拡大することもなかった。

年長児は、令和4年度から取り組んでいる「保幼小架け橋プログラム」において、モデル校の春野東小学校と近隣の児童福祉施設と交流する機会を多く持ち、子ども達の就学への期待感の醸成、保護者の不安解消をはかった。加えて、職員間の交流や公開保育・公開授業などによりスキルアップをはかった。

保護者支援においては、近年、核家族化、子育て家庭の地域からの孤立、子育て不安の増加等、子育てをめぐる環境が大きく変化しており、「一時保育」「病児保育」「子育て支援センター」「放課後児童クラブ(3か所)」をこれまで同様開所することで保護者のニーズに応えた。

[1] うららか保育園 関連事業

活動報告

基本方針、保育目標、めざす子ども像を念頭に置き、「保育」「食育」「発育」の3つの育ちに努めた。毎日の朝ミーティング、月2回の報連相の会(職員会)、乳児・幼児部会により、多職種連携のもと、子ども一人一人の特性や背景などの情報を共有し保育に反映した。

「保育」一月齢、年齢に応じた環境構成を心がけ、遊びや体験を通して健康なからだづくりと情緒の安定をはかるよう努めた。特に年長児は、遊びの中で、子ども同士で探求する協

調する力がつくよう” 架け橋カリキュラム” を保育計画に活かし取り組んだ。

日々の保育においては、園庭あそびや散歩、菜園など自然と触れる活動を多く取り入れた。他、四季折々の行事をはじめ、誕生会、お点前（年長児）、英語で遊ぼう（年長・年中児）、学研教室のまなびタイム（年長児）などを計画し実施した。保護者には、「園だより」「クラスだより」を月1回配布し、保育の様子や子どもたちの姿等を伝えた。

「食育」－献立において、栄養のバランスや年齢に応じた食材の大きさ、素材の味を生かした食事の提供、食材の安全性や品質などの検討を毎月行った。アレルギー除去対象児に対しては、主治医が記入した「アレルギー疾患生活管理指導表」に基づき、看護師、調理員、保育士が連携し誤食防止に努めた。

食育教室は、調理員の可能な範囲で行ったが、計画性に欠けた実施であったため、今後は、目的を明確にして計画的、継続的に実施したい。

「発育」－身体測定（2か月毎）、内科・歯科健診（年2回）、尿検査・視力検査（幼児組年1回）を実施し家庭に結果を報告した。口腔衛生については、4歳児、5歳児クラスで昼食後にフッ化物洗口を行い齲歯防止に努めた。感染症に対しては、室内の環境整備、手洗い・手指消毒の徹底、登園時の体調観察を行うとともに、園独自の「保健だより」を発行し、園の保健衛生に関する情報を発信した。保育中に発熱や嘔吐・下痢などの症状がみられた場合、児を体調不良対応室で看護師が保護者の迎えまで看護し、児の体調の変化に留意しながら安静保持に努めた。

リスクマネジメントについては、今年度も「保育中の怪我や事故の防止」「睡眠中の乳幼児突然死症候群（SIDS）予防」「災害への備え」の3点を重点に取り組んだ。

「保育中の怪我や事故の防止」－重大事故の発生はなかったが、受診が必要な怪我が3件あった。受傷直後、保護者に報告したうえですみやかに受診・謝罪し、トラブルなく解決できた。他にも、子どもの予測できない行動や子ども同士のトラブルから怪我に発展することがあり、事の大小にかかわらずその都度保護者に丁寧な報告、謝罪するよう努めた。

「睡眠中の乳幼児突然死症候群（SIDS）予防」－乳児は入園から2週間慣らし保育をお願いし、子どもの環境の変化によるストレス除去に努めた。また、入眠中は15分毎に呼吸、体位、顔の向きを観察・記録し事故防止に努めた。

「災害への備え」－5月に全職員対象に日本災害救助支援機構を招き机上訓練を実施した。また、突然の火災や地震・台風などの自然災害に備え、月1回、避難訓練を実施するとともに備蓄の確認及び補充を行った。また年2回「防災だより」を発行する中で、保育中に災害が発生した際の保護者への連絡手段として活用できる「災害伝言ダイヤル171体験」を実施した。他、災害発生時等に保護者に情報を一斉発信できるシステム（コミュなび）を導入し、77%の児童が登録している。「災害伝言ダイヤル171体験」、情報伝達一斉発信システム（コミュなび）を使った情報伝達訓練を年2回実施した。「災害伝言ダイヤル171体験」は、電話をかける手間もあって体験率は15%前後であった。情報伝達一斉発信システム（コミュなび）は50%ほどの既読率であった。また、5月の参観日に、災害発生時の緊急連絡カードに

基づく園児の引き渡し訓練を実施した。実施から見えてきた課題を整理し、よりスムーズで確実に引き渡す方法を検討し改善に努めた。

交通安全については、警察の協力のもと、幼児クラスを中心に交通安全教室を年 2 回実施した。

防犯訓練は、内部での取組にとどまっている。今後、警察等の外的機関と連携し、不審者侵入の際、冷静な判断と行動で子どもたちと自身の身を守る訓練を定期的の実施したい。

職員の資質向上のための研修は、会場集合型に加えて ZOOM、アーカイブ研修が増えたことにより、同じ研修を複数の職員が受講することができている。公開保育を 5 歳児クラスで実施した。そこには行政や他園の保育士が参加し、意見交換や討議を行った。個々の視点の違いから学びを深め、情報を共有・共感する中で保育の質の向上を図った。

実習は、保育実習 1 名、小児看護実習 16 名、職場体験実習 7 名を受け入れた。

保護者会は、保護者会役員が主体的に活動し、コロナ禍により 3 年中止していた「バザー」を、地域交流を目的に開催した。多くの集客があり園の PR の機会となった。

【園児入園状況と園児数 (定員 130 名)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	4	7	7	7	10	11	11	11	12	12	12	14
1歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
2歳児	18	18	18	18	18	19	19	19	19	19	19	20
3歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
4歳児	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
5歳児	21	22	22	21	21	21	21	21	21	21	21	21
合計	104	108	108	107	110	112	112	112	113	113	113	116

【保育日数】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日数	24	24	26	25	25	24	25	24	24	23	23	25	292

土曜日 (7:30~19:00) を土曜登園として実施しており、実質の休日は日曜・祝日および年末年始(12/30~1/3)である。

【主な行事報告】

月 日	行 事 名	月 日	行 事 名
4月1日	第22回入園式	12月1日	芋ほり
4月3日	始園式	12月5日	交通安全教室
4月15日	親子遠足	12月7日	木曜市
5月13日	こいのぼり参観日	12月8日	お餅つき
6月20日	プール開き 神事	12月22日	クリスマス会
7月15日	夕涼み会	1月23日	マラソン集会
7月28日	年長 野外活動(仁淀川)	1月26日	保幼小架け橋プログラム 交流会～一日体験入学～
8月22日	総合避難訓練	2月3日	節分集会
9月2日	なかよし参観日	2月17日	第22回発表会
10月8日	第21回運動会	3月7日	年長児 交通安全教室
10月20日	保幼小架け橋プログラム交流会	3月8日	お別れ遠足
11月3日	年長 春野町文化祭参加	3月22日	修了式・お別れ会
11月10日	秋の遠足	3月23日	第22回卒園式
11月29日	保幼小架け橋プログラム交流会		

毎月の行事－誕生会、避難訓練、お点前（年長）、まなびタイム（年中・年長）、英語で遊ぼう（幼児組）、

【保健関係】

内 容	実 施 日
尿検査	幼児組 4月20日
内科健診	春季－5月8日、15日 秋季－10月16日、23日
歯科健診	春季－6月14日 秋季－11月8日
視力検査	幼児組 11月14日、15日

2ヶ月毎一身体測定(0歳児は頭位測定を含む)

【体験学習・保育実習等受け入れ状況】

学 校 名	月 日	人数
高知中央高等学校衛生看護専攻科 小児看護実習	5月24日～5月30日 6月21日～7月4日	16名
高知県立春野高等学校 インターンシップ	7月25日～7月27日	3名
高知県立高知国際中学校 課外活動（奉仕活動）	7月31日～8月4日	3名
高知県立日高特別支援学校 現場実習	9月25日～10月6日	1名
龍馬看護ふくし専門学校 保育実習Ⅱ	10月16日～10月28日	1名

[2] うららか保育園 特別事業関連

活動報告

子育て家庭のニーズに応じ、「延長保育（19 時まで）」「一時保育」「子育て支援センター」「病後児保育」「体調不良児対応型保育」を実施し、育児の不安解消や負担軽減につとめ親支援を行った。

(1) 延長保育事業（利用時間 18 時 30 分から 19 時）

補助金対象外により、利用料金（2,000 円/月）の集金収益により実施した。月平均 5 名ほどの利用があった。

(2) 一時保育（クローバー）

他園の一時保育は、1 歳を迎え離乳食完了後からとなっている中、本園は 5 ヶ月から受け入れをしている。そのため、0 歳児の登録が利用児の 7 割を占める。子育て支援センター「うららかなかよし広場」利用者より、保護者の育児による精神的・肉体的疲労、出産時の兄・姉の育児、家族介護・看護等の悩みが寄せられる中、一時保育事業の紹介により利用につながったケースが多い。他、里帰りによるリフレッシュや断続的・短期的就労の理由による利用もあった。

【利用状況】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延人数	34	32	45	45	44	40	45	45	29	43	44	37
平均	1.7	1.6	2.0	2.3	2.0	2.0	2.1	2.3	1.5	2.3	2.3	1.6

(3) 子育て支援センター「うららかなかよし広場」

新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行した 5 月から、来所の予約、人数制限を廃止した。ただし、人気のあるイベントは、人数制限のうえ予約制で実施した。

育児講座は、助産師、保健師、栄養士の外部講師による相談会や保育園看護師による毎月の身体測定、救急法の勉強会など子どもの健康や発達に関する内容から、リラクゼーション、創作など保護者の興味的なイベントを計画・実施した。コロナ禍において実施できなかったクッキングも 2 回計画した。小学校に就学すると、子育て支援センターを利用する機会がなくなる中、夏休みに小学生のいる家庭を対象に、地域のコミュニティーセンターを借りて実施し参加者同士、調理、食事をしながら交流し好評であった。

なかよし広場の様子は、日々 Instagram にアップして PR した。現在のフォロワー数は 347 人となっている。今後、活動内容のアップ方法を工夫し、フォロワー数、来所者数を増やしていきたい。

【育児講座等の実施】

	内 容
4月	英語リトミック、離乳食教室(栄養士)
5月	スクラップブックング、育児相談(助産師)
6月	ボタニカル手形アート
7月	七夕飾りを作ろう、は・は・はの話し(歯科衛生士)、レジン体験
8月	育児相談会(保健師)、小学生 welcome カレーパーティー
9月	ベビーマッサージ
10月	離乳食教室(栄養士)、骨盤調整ヨガ、ハロウィン製作
11月	育児相談会(助産師)、クリスマスリース作り
12月	しめ縄作り、クリスマス会
1月	赤ちゃんのやわらか抱き方講座、育児相談会(保健師)
2月	節分集会、パン教室
3月	バランスボール体操、お別れ遠足

・毎月の行事ーよちよちランド・身体測定

【年間利用者数】

延べ利用者数				登録児童数	年間開設日数
組数	児童数	大人	合計		
1146組	1174人	1145人	2319人	162人	243日

(4) 病児、病後児保育事業(ラベンダー)

コロナ禍において、感染防止対策が徹底されていたこともあり、利用が少なかったが、今年度はインフルエンザウイルス、アデノウイルス、A群溶結性連鎖球菌咽頭炎、水痘症など、多様な感染症の蔓延により、利用の希望が集中し、お断りすることがしばしばあった。

疾患別では、風邪症候群(上気道炎、咽頭炎など)が利用の半数を占め、季節を問わず多かった。

【利用状況】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延人数	20	15	21	17	22	17	24	22	30	9	9	32	238

【疾患別割合】

風邪症候群	50%
胃腸炎	7%
インフルエンザウイルス感染症	27%
水痘	5%
その他 (RS ウイルス、突発性発疹、蕁麻疹等)	11%

(5) 体調不良児対応型病児保育事業（スイトピー）

保育中の急な発熱や体調不良による利用が主となる。保護者の就労によりすぐに迎えに来る事が出来ない園児の観察、安静の保持により利用するケースがほとんどであった。その中で、発熱により保護者の迎え待ちの間に熱性けいれんを起こすケースが1件あった。

【利用状況】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延人数	5	33	6	9	5	13	23	3	17	23	12	39	188

[3] 放課後児童クラブ関連

活動報告

クラブ毎、環境や利用する児童の特性に違いがあり、情報の共有を目的に月1回定例会を開いている。その中で、各クラブの様子や、気になる児童のかかわり方などを報告・相談することで支援員の研鑽をはかった。

入学・進級から2ヶ月は、環境の変化や通学による疲れ等から注意散漫、友だちとのトラブルが多くあったが、児童の特性を把握し、個別のかかわりを行うと共に、支援員が同じ姿勢で指導することで徐々に落ち着き、概ねクラブのルールを守って過ごすことができるようになった。

支援員には、感染防止対策や熱中症予防、日常的におこる怪我の手当から心肺停止時の対応に至る救急法について講習等を行い、児童の健康管理と安全の確保に努めた。

発達障害など特別な配慮を要する児童に対して、加配指導員を配置し、児童の見通しがもてるよう視覚支援を心がけた。しかし、障害の理解や児童一人ひとりの特性を尊重した支援においては、課題が残る部分もある。今後も、研修等を通して支援員のスキルアップをはかるとともに、日々のかかわりにおいて信頼関係を築き、児童が居心地の良い環境づくりに努めたい。

(1) 春野東小学校放課後児童クラブ

【利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	20	21	23	20	22	21	22	21	21	20	20	21
在籍者数	48	48	47	47	47	46	46	46	45	42	42	42
延人数	840	877	999	827	619	844	853	747	773	683	706	644

(2) 春野西小学校放課後児童クラブ

【利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	20	21	23	20	22	21	22	21	21	20	20	21
在籍者数	42	44	44	44	44	42	44	44	42	40	40	40
延人数	722	806	903	751	588	765	856	694	717	674	681	599

(3) 春野東小学校南ヶ丘第一放課後児童クラブ

【利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	20	21	23	20	22	21	22	21	21	20	20	21
在籍者数	41	41	42	42	42	38	37	37	37	36	36	36
延人数	671	676	759	686	618	605	606	500	588	520	519	506

[4] 職員研修参加状況

月	研修名(内容)	主催者	参加職種	参加人数
4	第1回乳児保育研修(会場・Zoom)	高知市	園長・保育士 保育補助・栄養士	5
	体調不良児対応型病児保育事業 担当看護師オリエンテーション	高知市	看護師	1
	特別支援担当保育士等研修会	高知市	園長・保育士	5
5	災害時に求められるリーダーシップ	園内	全職員	16
	教育・保育施設等におけるSIDS予防講習会	高知市	保育士	4
6	アレルギー対応研修	高知市	看護師	1
	特別支援担当保育士研修会	高知市	保育士	3
	キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援)	高知県	保育士	1
	第1回地域子育て支援センター研修・交流会	高知市	保育士	1
	プール管理講習	高知市	看護師	1
	高知県保育士会 第1回園長部会	保育士会	園長	1
	病児保育事業の連絡会及び情報交換会	高知市	園長・看護師	2
	食育研修	高知市	調理師	2
	乳児保育研修	高知市	保育士・看護師	2
	放課後児童クラブ特別支援担当者研修会	高知市	児童クラブ支援員	1
7	地域子育て支援センター施設長研修	高知市	園長	1
	特別支援加配保育士研修	高知市	保育士	1
	保育園・幼稚園等 BCP 訓練	JDRS	保育士・看護師	4
	保幼小接続に関する研修Ⅱ期	高知県	保育士	2
	保育技術専門講座(運動遊びの楽しさを味わう)	高知県	保育士	2
	地域子育て支援センター施設長研修	高知県	園長	1
8	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応)	高知県	保育士	1
	救命講習	高知市	保育士・看護師	3
9	キャリアアップ研修(幼児教育)	高知県	保育士	1
	特別支援保育士研修会(Zoom)	高知市	保育士	3
	高知県保育士会 研修3	保育士会	園長・保育士	2
	園評価に関する研修	高知市	保育士	1
	キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援)	高知県	保育士	1

	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応)	高知県	保育士	1
	体調不良児対応型病児保育事業 担当看護師オリエンテーション	高知市	看護師	1
10	特別支援加配保育士(ABC 配置)研修会	高知市	保育士	3
	第2回地域子育て支援センター職員研修・交流会	高知市	保育士	1
	保育施設等における感染症対策	高知市	看護師	1
	放課後児童クラブ特別支援担当者研修会	高知市	児童クラブ支援員	2
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援)	高知県	保育士	1
	児童虐待に関する研修	高知県	保育士	1
	人権擁護のためのセルフチェックについて	園内	全職員	33
11	特別支援加配保育士(D 配置)研修会	高知市	保育士	1
	高知ブロック「ブロック別研修会」	高知市	保育士	2
	保育技術専門講座「乳幼児期の発達と遊び」	高知県	保育士	1
	救急法	クラブ内	児童クラブ支援員	8
12	吐瀉物の処理方法(感染拡大防止のため)	園内	全職員	27
	とっさの時の救急法	園内	全職員	27
	救命講習	園内	全職員	28
1	キャリアアップ研修(幼児教育)	高知県	保育士	1
	保育技術専門講座Ⅴ「乳児保育と環境」	高知県	保育士	1
	高知市保幼小連携・接続研修会	高知市	園長	1
2	放課後児童クラブ特別支援担当者研修	高知市	児童クラブ支援員	1
	子育て支援員フォローアップ研修	高知市	子育て支援員	1
	高知県保育士会 第3回園長会	保育士会	園長	1
	特別支援加配保育士(D 配置)研修会	高知市	園長・保育士	2
	第3回地域子育て支援センター職員研修・交流会	高知市	子育て支援員	1
	特別支援担当保育士研修会	高知市	保育士	3

Ⅲ 公益事業

[1] 介護福祉士養成施設 関連

1. 平成福祉専門学校

(1) 教務

本年度の介護福祉士国家試験受験者は2年生全員22人であり、合格率は95.5%21人の合格であった。残念ながら不合格となった1名は、国家試験直前にコロナウイルス感染症に罹患し、体調が万全でない中での受験であったため、次年度の受験に向けてサポートしていきたい。また、21名の合格者のうち1名の学生は、卒業間近であったが、進路変更のため3月で退学となった。

学習では、コロナウイルス感染症対策を講じながら対面で授業を行い、家族等が感染し、登校を控えた学生にもWEBを活用し、受講できる環境を継続して行っている。また、住環境コーディネーターやケアコミュニケーション検定等に加え、取得できる資格を拡大し、授業についても訪問内容やメイク等、福祉現場における生活上の課題等も加えた教育を行うことができた。

施設実習では、1年生の在宅実習は法人内施設で実施し、続く1段階と2段階の施設実習では、コロナウイルス感染症によりクラスターとなった施設もあり、実習期間中に施設を変更するケースもあった。また、2年生の第3段階実習は、5週間を2週間と3週間に分け、2週間は法人外の実習施設で行い、3週間は法人内施設と介護医療院朝倉で行い、移動距離と対応時間の確保を行い、学生への指導等をより強化し、介護福祉士としてのレベル向上と統一した教育を行うことができた。

ボランティアやレクリエーション等の校外活動については、募集や開催数がコロナ感染症流行前に戻りつつあるが、施設実習や試験を最優先し、感染対策リスクも考え参加はできていない。次年度は可能な範囲で参加し、思考力・表現力の向上を目指し、教育へと繋げていきたい。

学生状況については1年生で2名、2年生で3名の退学者があった。家族を含め再三の面談、訪問を重ねたが、本人の進路変更への希望が強く、本人・家族の意向を尊重した結果となった。

学生自治会活動は、感染対策を講じながら校内外で実施し、1、2年生が交流する機会を設けることができた。

【令和5年度 学生数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	24	24	24	24	24	23	23	23	23	23	23	22
2年生	24	24	24	24	23	23	22	22	22	22	22	21

【令和5年度 卒業生就職状況】

種別	人数
社会福祉法人	12
医療法人	8
組合立・町立	0
株式会社	1
県外（社会福祉法人）	0
未就職	0
留年	0
計	21

(2) 学生募集

40名定員に対して24名の入学生を迎えることができた。延べ172校の高校訪問を行い、体験入学への参加周知や奨学金等の周知を行った。訪問時には、広報活動に加えて、説明会や体験入学へ参加した高校生の様子や質問等、個別対応した内容についても報告や説明を行った。

高知県専修学校各種学校連合会や業者の行う説明会では、高知県内の高等学校や高知県内のホテル等で行われ、合計27回実施し、延べ95名の高校生に説明を行った。また、福祉教育授業については、高知県内9校において述べ26回実施した。訪問説明等のほか、SNS等のWEBを活用した活動を強化した。

しかし、少子化の影響は年々強く、高校の進学は、大学進学をほぼ主とした構成となっている。県内外を問わず、専門学校では、学生確保の難しい状況となっており、本校についても、翌年度の入学予定者は14名と大幅に減少する結果となった。

(3) 総務

学費や寮費などの納入に関してはスムーズに処理を行うことができ年度内に全員納入ができています。その他の経費については、年度内の必要なものを検討し、職員全員が意識をもって節約に取り組むことができた。

2. 介護福祉士実務者研修

本年度は20名が受講し19名が研修を修了した。昨年に比べて受講者が3名減となり、毎年受講者が減少している。施設で働く職員の多くが有資格者になっている状況もあるが、受講者が増加するよう周知が必要である。

3. 高校生就職支援事業（介護初任者研修）

高知県委託である本事業では、訪問型研修として春野高校・城山高校の2校と集合型研修として本校で行う計3校で実施した。計40名が受講し38名が修了。この研修より本校へ進学となった生徒は計4名であったが、高校卒業後、介護分野へ就職する生徒もおり、今後も継続し、より多くの受講生の確保と周知が必要である。